

論理的な思考力と豊かな表現力を身に付けさせる指導法の研究

十島村立宝島小・中学校

1 研究のねらい

本校では、「主体的に考え、行動し、意欲的に表現する児童生徒の育成～極少人数学級における基礎基本の確実な定着と活用を図る指導法の研究～」というテーマで過去2年研修を行ってきた。その実践として、児童生徒の個々の課題を明確にした上で、授業づくりの共通実践事項を定め、職員全体の授業力向上を図った。成果として、各調査から基礎的・基本的内容や技能の定着が全般的に見られた。しかしながら、全体的に思考力・表現力が十分に育成されていないという新たな課題が生まれた。そこで、学校全体の共通実践として、指導法改善に努め、児童生徒の思考力・表現力を高める授業を積極的に展開していく必要があると考えた。

2 研究の概要

平成29年度本校研究テーマ 論理的な思考力と豊かな表現力を身に付けさせる指導法の研究	
研究仮説Ⅰ 積極的に討論や意見交換、 論述などの言語活動をより充 実させることにより、思考力 や表現力を高められるであろ う。	研究仮説Ⅱ 全教育活動において、議論や 発表等の表現活動に重点をおく ことにより、思考力や表現力を 高められるであろう。



資料1 校内研修R-PDCAサイクル

本校の児童生徒のほとんどが、「基礎・基本的な内容の定着」は概ね達成していると言える。しかしながら、前年度の学習指導に関する校内研修において、「活用を図る指導法の研究」をどう具体的に推進し、どのように指導法改善に努めていくか十分検討できていなかった。以上の反省から、「活用を図る指導法の研究」の本校の方向性や具体的方策を示す必要があると考えた。

そこで、児童生徒の実態を踏まえ今年度の校内「研究テーマ」を上のように改定した。テーマの実現のため、校内研修体制を再構築し（資料1）、年間を通して職員全体で取り組んだ。

3 研究の内容

(1) 思考力や表現力を高める指導法の改善

- ア 討論や意見交換、論述などの言語活動の積極的な展開
- イ ICT機器を活用した情報活用能力の育成
- ウ 個人カルテによる学力把握と系統的・横断的指導
- エ 指導案統一による確実な共通実践
- オ 小中連携した系統的な教科指導の展開

(2) 思考力や表現力を高める教育活動の充実

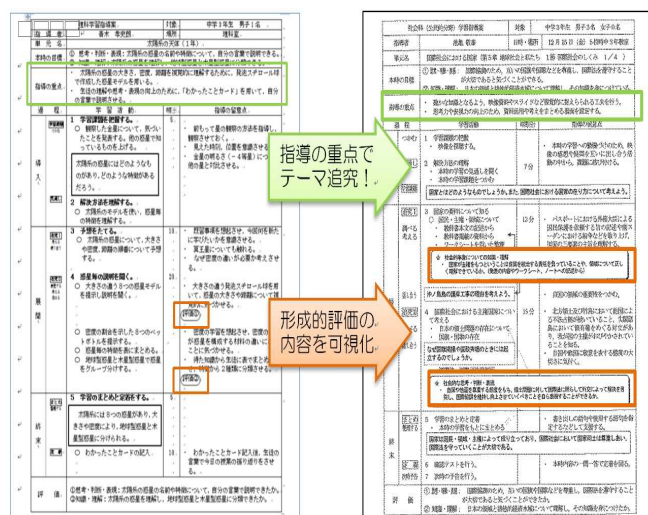
- ア 各調査における児童生徒の課題把握と個別指導の展開
- イ 「人権標語」や「人権作文」の指導の充実
- ウ 学力向上WEBシステムを活用した学力の定着
- エ 総合的な学習の時間や学校行事等を利用した表現活動の推進

4 研究の実際

学校全体の教科指導の充実のために、チームとして授業力向上を目指す校内研修の運営を推進していく必要があると考え、以下の手立てを講じた。

(1) 指導案様式の改善

授業における「形成的評価」についての理解が不十分であり、「評価」すべきポイントがずれているなどの課題があった。その原因として、校内「研究テーマ」を意識した授業の「山場」づくりが十分行えていなかったことが考えられる。今回の「研究テーマ」の改定により、児童生徒に育成すべき資質や能力が明確になったことを受け、指導案の様式を改善した（資料2）。指導案を作成する際の「指導の重点」は、校内テーマ追究のための指導内容にすることとし、本年度最初の校内研修において職員で共通理解した。



資料2 学習指導案様式の改善（右が新様式）

（2）指導案検討における「模擬授業」の展開（資料3）

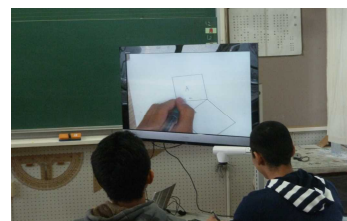
学習指導案という二次元的資料から、実際の授業をイメージするという三次元化の行程において、職員間で大きな誤差が生じていた。そこで、指導案検討会において「模擬授業」を導入した。指導案検討の研修において、指導案の本時の「展開」の一部分を授業者が行う。その部分とは「授業の山場」の場面であり、研究テーマの「論理的な思考力と豊かな表現力」を育成する場面でなければならない。模擬授業の実施後は、その授業部分において、本校研究テーマが追究されているか、また、その指導が児童生徒にとって適切であったかを全職員で検証した。



資料3 指導案検討会での模擬授業

（3）ICT機器を利用した表現力向上の指導例

NRTの分析により言語による思考よりも視覚的に思考する方が得意である児童生徒もいることが分かった。そこで、積極的にICT機器を活用し、説明活動等での思考力や表現力の育成を図った（資料4）。また、TV会議システムを利用した「十島村受験生の集い」においても、他校の生徒へ自分の考えを論理的に説明するという到達目標を設定し、豊かな表現力の育成を図った。



資料4 数学における一例

5 研究のまとめ

（1）成果

全職員で研究テーマを追究する体制が整い、実際に職員の追究の意識が高まった。校種や教科を越え、積極的に意見を述べ、相互に学び高め合える協議が展開されるようになり、全体的な授業の質の向上が図られた。

（2）課題

「論理的な思考力と豊かな表現力」育成について一層の追究を進めるため、全教育活動における表現力向上のための手立てと到達目標の設定が必要であると考え。さらに、研究協議後の実践化と小中連携による系統的な学習指導の充実も図っていきたい。

6 今後の取組

本村の小・中学校では、TV会議システムを活用した合同授業が積極的に行われ、最近では合同研究授業の実施も多くなった。今後、当システムでの授業検討会の実施も検討していきたい。また、学習指導要領の改訂を受け、各教科における「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導や評価の在り方について全職員で研修を深め、児童生徒にとってより適切な授業を展開していきたい。